



図書室開設準備の一年

渡邊 朋子

I. はじめに

2003年4月より1年間にわたる京都桂病院図書室における開設準備の経過と今後の課題について報告します。

「社会福祉法人・京都社会事業財団 京都桂病院」は昭和12年11月に開院し、病床数は585床あり、21診療科を有しております。「患者さんの人権を尊重し、地域に必要な基幹の中心的な医療を担当するとともに、さらに高次の医療に対応できるよう努力すること」を基本理念としています。

II. 図書室ができるまでの経緯

雑誌や単行書その他の資料は、医局や看護部などで分散管理をしていましたが、総合整備計画の一環として、また、2004年4月から受け入れる臨床研修医のための条件整備として必要であったことから、「図書室新設に関するプロジェクト準備委員会 第1回」が2002年7月17日に開かれました。蔵書管理は一括して図書室が行うが、配架場所については、各科、各医局の希望に添うこと、司書を採用し、設計から運用まですべてを任すこと、単行書購入の決定及び図書室の運営に関しては図書委員会にて協議決定し、司書は図書委員会の書記を務めることなどが決まりました。次に各科、各医局それぞれの資料を把握するための所蔵調査が行われ、2002年10月付けで「蔵書のリスト」が作成されました。(この「図書室新設に関するプロジェクト準備委員会」は第1回以後、開催されませ

んでした)

2003年4月に司書3人が採用されましたが、常時一人体制ということで引き継ぎ時間は15分間というあわただしさです。全員が揃ったスタッフ会議を毎週行い(このスタッフ会議は2004年3月25日で49回を数えます)、その他日々の細かいことは「申し送りノート」に記入することにより、スタッフ全員の共通認識となるように心がけました。

III. 開設準備

2003年4月から6月までを準備期間、2003年7月1日を仮運用の開始日、2004年4月1日を本格開館の日と定め、一年間で図書室の活動を軌道にのせること、将来を見つめつつ、当面の業務を順次具体化していくことを基本的な考え方にすえました。次に年間の課題としては、基礎的な業務処理方式(選書から発注、受入、分類、目録、装備、貸出、返却、参考業務等)の



わたなべ ともこ:京都桂病院 図書室

決定とそれに関わるシステムの検討、資料の整理方式とデータ処理について、文献と情報の検索や入手システムについて、職員の研修についてなどを掲げ、話し合いを重ねました。

資料の搬入が始まると、医局や看護部の図書担当から事務の引継ぎを受け、以前に病院が作成した「蔵書のリスト」を基にデータベースソフトの Access を使用した雑誌受入システムを構築し、現在まで改良を続けています。国立京都病院、京都南病院等を訪問し病院図書室についての基礎を、近畿病院図書室協議会やその他の研修会では「病院図書室のあり方」を教わりました。

Ⅳ. 仮運用

予定通り7月に仮運用を開始し、第1号の図書室便りを発行し各科に配布しました。第1回の図書室運営会議も開かれ、すぐに夜間・休日の開館方式を決定し、24時間オープンが可能となりました。図書室利用者には病院職員のほかに、併設施設である「京都桂看護専門学校」の職員および学生と決まりました。この図書室運営会議が定例化することにより、「図書室運営会議規定」が必要となり、「図書室規定」「図書室利用規則」「図書室夜間・休日利用細則」も同時に作成することになりました。

8月には、図書室の所属が庶務課に決まり、組織としての位置付けがはっきりしました。10月には、図書室内にとどまらず、病院内すべての雑誌の所蔵調査を実施し、『京都桂病院所蔵雑誌目録(予備版)』として各科に配布することができました。現在、2004年版発行に向けて準備中です。また「準備作業の経過と現状、当面の課題」などについてまとめ『月例報告』と

して今までに4回、最後に『年次報告』として図書室運営会議責任者に提出しました。

Ⅴ. 今後の課題

すでに満杯になった書架(この書架については、予算の関係上最初から継ぎ足し方式でした)の増設とレイアウトを考えること、次に単行書目録の発行を考えております。雑誌目録とあわせ病院所蔵の全資料目録を完成させ、今後の図書室としての蔵書構成を考える基盤としたいと思っております。また、4月に迎えます新規採用の看護師さんや臨床研修医のオリエンテーション用の資料として「利用案内」の発行、スタッフマニュアルの整備、相互貸借の本格稼働などを考えております。

Ⅵ. おわりに

京都桂病院図書室はようやく形が整いました。これから二年目を迎え中身の充実が計られます。2004年4月から始まる臨床研修医制度、この秋に当院が予定しております医療機能評価の受審、さらに患者・地域との関係など病院図書室としてのあり方が問われている時期だとも思えます。この時期に立ち会えましたことを真摯にとらえ、誰にでも開かれた図書室を目指して患者や医療関係者の一助になればと思っております。

最後になりましたが、近畿病院図書室協議会のようなネットワークの存在が大きな支えになりましたことをお伝えしまして、この報告を終わりたいと思います。皆様のパワーをいただきながらまた、二年目へと向かって行きたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。